

大学院 > 看護学研究科看護学専攻 > 総合的分野
1 年
2単位 前期
講義

水野 照美、朴 相俊

〔授業の概要〕

看護実践の向上に寄与する研究の意義と役割を理解する。看護研究における概念の明確化、枠組の構成、基本的研究手法とその応用、倫理的問題について学習する。量的・質的研究方法の特徴と研究プロセスを理解し、文献考察及び研究事例を通して、研究計画の作成から実施、論文作成の過程を具体的に学習する。

研究の基盤となる、対象の特性や看護活動に関わる効果などを量的・質的に把握する手法やデータ解析の方法を学習する。

〔到達目標〕

1. 看護学研究の目的、方法、倫理的関連事項が説明できる。
2. 量的研究方法、質的研究方法の特徴を説明でき、それぞれの研究論文を読んでクリティークする体験ができる。
3. 研究計画書の構成がわかり、身近な話題から研究目的に至る計画書の一部を書く体験ができる。
4. 量的な研究データの統計的解析法の基礎が分かり、論文を解釈できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

- | | |
|--------|---|
| 第 1 回 | 授業オリエンテーション 看護実践と研究 研究のプロセス |
| 第 2 回 | 文献検索：文献検索の具体的な方法を理解修得する |
| 第 3 回 | 量的研究の進め方（1）：量的研究の総論を理解する |
| 第 4 回 | 量的研究の進め方（2）：研究論文を例に観察研究の方法を理解する |
| 第 5 回 | 量的研究の進め方（3）：研究論文を例に観察研究の方法を理解する |
| 第 6 回 | 量的研究の進め方（4）：研究論文を例に介入研究の方法を理解する |
| 第 7 回 | 看護学研究の進め方：研究デザイン、テーマの設定から成果の発表まで |
| 第 8 回 | 質的研究の進め方（1）：研究論文を例に質的記述的研究の方法を理解する |
| 第 9 回 | 質的研究の進め方（2）：研究論文を例にグラウンデッド・セオリーの方法を理解する |
| 第 10 回 | 質的研究の進め方（3）：研究論文を例に現象学の方法を理解する |
| 第 11 回 | 研究に際しての倫理的事項 |
| 第 12 回 | 研究計画の立て方（1）：看護における身近なトピックスから研究課題を見出す |
| 第 13 回 | 研究計画の立て方（2）：研究課題に沿った文献を集め、研究課題とのつながりを検討する |

第 14 回 研究計画の立て方（3）：研究計画書の一部をつくる

第 15 回 研究計画の立て方（4）：ディスカッション

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：系統看護学講座別巻 看護研究，医学書院

参考書：D.F.Polit他，近藤潤子監訳，看護研究 原理と方法，医学書院

N.Burns他，黒田裕子他監訳，看護研究入門－実践・評価・活用－，エルゼビアジャパン

上記の参考書2冊は総論的な内容の図書ですので、各論・方法論別・難易度別の内容については、図書館蔵書をご活用ください

〔成績評価の方法・基準〕

レポート（40%）、プレゼンテーション（30%）、授業参加状況（30%）

〔授業時間外学修〕

1. 研究のプロセスについて、教科書・参考書・図書館の蔵書、先輩の論文閲覧等で予習復習（7時間程度）
2. 講義で取り上げる論文と、その論文を読み解くのに各自に必要な内容を予習復習する。例：教科書・参考書、論文の引用文献(20時間程度)
3. 文献検索のコマの後、各自の関心事項について文献検索・収集・読解・管理（整理）（7時間程度）
4. 研究計画書作成にあたり、各自の関心事項について論述・推敲・ディスカッション・調べ直し・書き直しを繰り返し、研究疑問(research question)生成への模擬練習（20時間程度）
5. （将来、修士論文作成プロセスで必要になるため、余裕があれば）研究倫理について、APRIN e-learningでの学習を進める（6時間程度）

〔オフィスアワー〕

講義の終了後または、下記メールにて日程調整

t-mizuno●saku.ac.jp

s-park●saku.ac.jp

●を@に入れ替えてください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

本科目は、修士論文（看護学特別研究／プライマリケア看護学特定課題研究）の基盤となる科目です。

担当教員(水野、朴)は皆さんからの質問や相談を歓迎します。看護研究方法は一回学ぶだけでは理解が難しいため、実際に研究に取り組む過程でも遠慮なく相談にお越しく下さい。

事前学習課題については、講義時間内に解説を行ったりディスカッションを通じたりしてフィードバックします。講義の順番は多少前後しますので、初回授業にてお伝えします。

授業以外にも、修士論文中間発表会（5回／年予定）、修士論文発表会（3月）に参加して先輩の進行状況に触れたり、図書館で修了生の製本論文に触れたりして、修士論文作成のプロセスをイメージしましょう。

さらに、各種学会の学術集会に参加したり、学会誌の論文

を読んだりして、看護系の修士課程修了後の活躍も意識しましょう。

看護コミュニケーション論 2023年度入学

大学院 > 看護学研究科看護学専攻 > 総合的分野
1 年
2単位 後期
講義

坂江 千寿子

〔授業の概要〕

われわれは、生まれながらにしてコミュニケーションのすべを身につけ、互いの行動に影響を与え、また人々の行動を理解してきている。看護実践においてもコミュニケーションは重要な要素であり、ケアそのものともいえる。しかし、看護実践をさらに効果的に行うために、改めてコミュニケーションとは何かを考え、その意義と役割をよく理解することが必要である。コミュニケーション概念の明確化、関連する諸要因、患者―看護者関係とコミュニケーションについて学習する。日常生活や看護実践で経験するコミュニケーションの例を参考にしながら、コミュニケーションのあり方を理解する。

〔到達目標〕

1. コミュニケーションに関する基礎理論を基に、コミュニケーションの意義と役割を考察し説明できるようになる。
2. コミュニケーションの成立要因を踏まえて、患者―看護者関係の成立に必要なコミュニケーション能力を養う。
3. コミュニケーションスキルとしてのカウンセリング技法、アサーション、コーチングの基礎を学び、日常生活や看護場面に活用できる。
4. 看護場面の再構成を用いて、自他のコミュニケーション場面を分析し、相互に助言できる能力を養う。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1

〔授業計画〕

- 1 コースガイダンス 対人コミュニケーションとは 講義 坂江
- 2 看護における対人コミュニケーション 演習 坂江
- 3・4 コミュニケーションに関する諸理論を学ぶ カウンセリングの基礎 講義 坂江
- 5・6 プレゼンテーション課題1 演習 坂江
・精神科治療の概念モデル 精神分析 精神力動と自我機能 演習 坂江
- 7・8 対人関係理論 プレゼンテーション課題2 演習 坂江
- 9・10 カウンセリングの基礎理論と技法 演習 坂江
・交流分析、エゴグラム

・ 選 択 理 論

- ・アサーション
- ・コーチング

- 11-14 看護の場面で起きるコミュニケーション課題の分析と解決方法 講義 坂江

（各自の事例を用いたプレゼンテーションと討議によって、コミュニケーションスキ

ルの活用方法を学ぶ
演習坂江

- ・リフレクション プレゼンテーション課題3
- ・看護場面の再構成 プレゼンテーション課題4
- ・自己分析の実際を理解する

15

ま と め
講

義 坂江

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：ジュリア・バルザー・ライリー著『看護のコミュニケーション 原著第5版』エルゼビア・ジャパン
参考文献：南裕子監修『精神科看護の理論と実践』ヌーベルヒロカワほか

〔成績評価の方法・基準〕

レポート（40％）

授業参加状況（20％）

課題のプレゼンテーションなど（40％）

〔授業時間外学修〕

コミュニケーションの基礎理論等の理解、日ごろの自己のコミュニケーションの傾向の分析を課題としますので、計画的な事前準備が必要です。フィードバックは、プレゼンテーションに対する意見交換、最終レポートへのコメントを予定しています。

〔オフィスアワー〕

授業後あるいはメール等での質問を歓迎します。chi-sakae
●saku.ac.jp

図書や文献の紹介もしますので、積極的に相談に来てください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

看護師として11年勤務。上級教育カウンセラー資格。医療機関での実務経験を基に看護コミュニケーションについて講義する

〔その他履修上の留意事項等〕

大学院 > 看護学研究科看護学専攻 > 総合的分野
1 年
2単位 後期
講義

甲斐 一郎、中村 安秀、長松 康子、石川 陽子

〔授業の概要〕

発展途上国を中心として世界の保健医療事情を学習し、さまざまな健康上の課題を多文化的な視点から理解する。
また、国際保健医療活動のあり方についての学びを通して、望ましい国際協力の方法、体制づくりを学ぶ。

〔到達目標〕

1. 世界の保健医療事情について説明することができる。
2. さまざまな健康上の課題を多文化的な視点から説明することができる。
3. 望ましい国際協力の方法、体制づくりについて説明することができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

- 1回目：イントロダクション〔講義／甲斐〕
- 2回目：世界における健康問題と保健医療・看護〔講義／甲斐〕
- 3回目：プライマリヘルスケアみんなが元気になるために〔講義／長松〕
- 4回目：女性の健康〔講義／長松〕
- 5回目：世界で活躍する看護師・助産師〔講義／長松〕
- 6回目：在日外国人の健康問題・災害看護〔講義／長松〕
- 7回目：開発途上国のリプロダクティブヘルス（概論）〔講義／石川〕
- 8回目：開発途上国のリプロダクティブヘルス（ジェンダーと文化）〔講義／石川〕
- 9回目：プロジェクトサイクルマネジメント〔講義／石川〕
- 10回目：プロジェクトサイクルマネジメント（ケーススタディ）〔講義／石川〕
- 11回目：国際保健医療協力〔講義／中村〕
- 12回目：母子健康手帳〔講義／中村〕
- 13回目：緊急人道支援〔講義／中村〕
- 14回目：医療通訳士の仕事〔講義／中村〕
- 15回目：まとめ〔講義／甲斐〕

〔テキスト・参考書・参考文献〕

参考文献：

「国際保健医療学」国際保健医療学会（編）、杏林書院（ISBN 9784764405318）
「国際看護学入門」国際看護研究会（編）、医学書院（ISBN 9784260040785）
「国際看護・国際保健」丸井英二、森口育子、李節子（編）、弘文堂（ISBN 9784335760167）
「知って考えて実践する国際看護」近藤麻理（著）、医学書院（ISBN 9784260035361）

〔成績評価の方法・基準〕

最終レポート（40％）

授業参加状況（40％）

プレゼンテーション（20％）

〔授業時間外学修〕

準備学習については、授業時に指示する。

〔オフィスアワー〕

質問・相談についてはメールで対応する。

ichirokai-ky@umin.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

国内でも外国人患者が多くなってきた現在、異文化における看護は決して他人事ではありません。日本国内のみに目を向けているとなかなか理解できない多文化主義にもとづく看護の視点を持っていただくことができれば幸いです。

看護倫理 2023年度入学

大学院 > 看護学研究科看護学専攻 > 総合的分野

1 年

2単位 後期

講義

八尋 道子

【授業の概要】

この授業では、医療現場において生じる倫理的な課題・葛藤について、患者・家族・医療チームの間で倫理的調整を行うための基礎的知識と方法および言語化を、講義と演習（ケーススタディ）の組み合わせで体得していただきます。さらに、看護専門職としてヘルスケアを提供するという状況の中で、自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその価値の意味を考察することにより、倫理的能力の促進を目指します。

【到達目標】

以下の5つを目標とします

1. 「看護倫理」について、看護師にとってこの知識が必要な理由を説明することができる
2. 原則の倫理、徳の倫理、ケアの倫理、および倫理学の主要な概念を説明することができる
3. 専門職としての自己の価値基盤を明らかにし、看護実践において他職種・組織・社会等との関係から生じる現代の様々な倫理的課題をナラティブとして文章表現できる
4. 倫理的意思決定を行うための枠組みを理解し、倫理的な課題に直面したときどう対応するか、看護実践に活かす基本的な考え方を 4-steps Worksheet に記述することができる
5. 組織の倫理的風土を育むために、倫理カンファレンスの方法を学び、自分の所属組織に導入することができる

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

【授業計画】

- 第 1 回 コースガイダンス
コースガイダンス：科目の概要と授業の進め方
イントロダクション：自己紹介と遭遇したジレンマ・ケースについて
- 第 2 回 倫理・看護倫理の基礎
ピーターのケース
価値の対立 ジレンマ 倫理的感受性 道徳的思考
- 第 3 回 倫理・看護倫理の基礎知識（1）
原則の倫理、徳倫理学、ケアの倫理などについて各自で調べ、発表する（課題1）
- 第 4 回 倫理・看護倫理の基礎知識（2）
原則の倫理、徳倫理学、ケアの倫理などについて各自で調べ、発表する（課題1）つづき
- 第 5 回 倫理・看護倫理の基礎知識（3）
原則の倫理、徳倫理学、ケアの倫理について、発表後の質疑応答
- 第 6 回 専門職と倫理綱領

専門職 ICN看護師の倫理綱領 JNA看護職の倫理綱領

- 第 7 回 倫理的意思決定の枠組みとナラティブ
4-steps worksheet（事例検討用紙）を用いた道徳的思考の方法と意義

- 第 8 回 遭遇した事例を描く（1）
事例の提出とケーススタディの準備
倫理的課題や葛藤を各自がナラティブでケースにまとめ発表する（課題2）

- 第 9 回 遭遇した事例を描く（2）
倫理カンファレンスのためのケース選定

- 第 10 回 看護倫理学領域の最新レポート
生命倫理学会や看護倫理学会年次大会からの最新知見の紹介

- 第 11 回 道徳的推論：ケーススタディの実際
4-steps worksheet（事例検討用紙）を用いたワーク
2つのチームに分かれて倫理カンファレンスを準備する

- 第 12 回 倫理カンファレンスとプレゼンテーション（1）
4-steps worksheet（事例検討用紙）を用いた意思決定プロセスをプレゼンテーション（課題3）
チーム医療の倫理とソーシャルアカウンタビリティ、多職種連携を念頭に倫理カンファレンスを実施しましょう

- 第 13 回 倫理カンファレンスとプレゼンテーション（2）
第12回と同じ

- 第 14 回 倫理カンファレンスをふりかえる
臨床現場への応用可能性、倫理実践を検討する

- 第 15 回 看護倫理を教える・学ぶ・実践する
コースサマリー（課題4）

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト

- 1) 小西恵美子 編 (2021). 看護倫理：よい看護・よい看護師への道しるべ, 改訂第3版. 南江堂.

参考書

- 1) Davis, A.J.ほか著/小西恵美子監訳 (2006/2008). 看護倫理を教える・学ぶ:看護教育の視点と方法. 日本看護協会出版会.
2) ドゥーリー&マッカーシー著/坂川雅子訳. (2005/2006). 看護倫理. みすず書房.
3) 吉田みつ子 (2013). 看護倫理: 見ているものが違うから起こること. 医学書院.

その他、授業内で配付・紹介します。

【成績評価の方法・基準】

総合成績でよいグレードが得られるよう、下記の基準を参考にしてください。

1. 課題1 テーマ別レポートとプレゼンテーション (25%)

テーマについてまとめた配付資料を用いて、一人30分の持

ち時間で発表（講義）します。

書式：PPT file

2. 課題2 ケースレポートとプレゼンテーション（20%）

今までに体験した倫理的な課題や葛藤を事例にまとめケースレポートとして提出します。

書式：ナラティブ

3. 課題3 プレゼンテーションと討論会（30%）

倫理カンファレンスの内容をプレゼンテーションと討論会として評価します。

4. 最終レポート（25%）

詳細は授業内で通知します。

〔授業時間外学修〕

事前学修が必ず必要です。初回のコースガイダンスで説明します

〔オフィスアワー〕

木曜日18:00－19:30（まずはメールでご連絡ください）

八尋 e-mail address : m-yahiro●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

臨床看護師として6年、看護系大学教員として14年、看護倫理学の科目責任者として10年の実務経験を有す。教員の14年間およびPhD学生としての4年間は看護倫理領域の研究者に師事した。

〔その他履修上の留意事項等〕

開講日などは可能な限りご相談に応じます。履修生全体で話し合って決めましょう。

看護情報・分析 2023年度入学

大学院 > 看護学研究科看護学専攻 > 総合的分野
1 年
2単位 前期
講義

朴 相俊

〔授業の概要〕

看護情報システムの基本概念を学び、情報の整理、分析方法、データの見方などを検討・考察する。情報システムやデータを看護活動の実際場面や、看護管理へ活用する方法について考察する。また文献を読み、データ解析手法の適用について考察する。

〔到達目標〕

1. 情報やデータに関する知識を学び、適切な管理方法を習得する。
2. 統計について学び、適切なデータのまとめ方ができるようになる。
3. 修士論文のためのデータ収集の注意点を整理する。
4. 修士論文に活用する生データを使ってデータセットの作成および解析を行う。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP2、DP6

〔授業計画〕

- 第 1 回 看護情報・分析
オリエンテーション：データの管理について、その他
- 第 2 回 看護情報・分析
統計解析の基礎：疫学的研究デザインと統計、データの種類（各自のデータ紹介）
- 第 3 回 看護情報・分析
SPSS（統計ソフト）の使い方、代表値（平均・分散・中央値・パーセントタイル）
- 第 4 回 看護情報・分析
統計的検定①：2群間の比較（対応のないt検定）
- 第 5 回 看護情報・分析
統計的検定②：2群間の比較（対応のあるt検定）
- 第 6 回 看護情報・分析
統計的検定③：2群間の比較（順位和検定）
- 第 7 回 看護情報・分析
統計的検定④：2群の関連分析（カイ2乗検定）
- 第 8 回 看護情報・分析
統計的検定⑤：2群の関連分析（リスク比・オッズ比）
- 第 9 回 看護情報・分析
統計的検定⑥：2群間の関連分析（散布図・相関分析）
- 第 10 回 看護情報・分析
統計的検定⑦：2群の関連の推定（回帰分析）
- 第 11 回 看護情報・分析
統計的検定⑧：3群間以上の比較（分散分析）
- 第 12 回 看護情報・分析

統計的検定⑨：3群以上の関連分析（偏相関分析）

第 13 回 看護情報・分析

統計的検定⑩：多変量解析（重回帰分析・ロジスティック分析）

第 14 回 看護情報・分析

統計的検定⑪：多変量解析（主成分分析、因子分析＋クラスター分析）

第 15 回 看護情報・分析

調査・研究のまとめ：研究計画相談

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：指定しない。

参考資料：講義の中で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

授業参加状況（30％）

課題（70％）

〔授業時間外学修〕

特に指定しない

〔オフィスアワー〕

随時、教室・研究室で質問を受け付ける

s-park@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

大学院 > 看護学研究科看護学専攻 > 総合的分野
1 年
2単位 後期
講義

佐藤 嘉夫、小山 秀夫

〔授業の概要〕

社会福祉と保健に関する政策と制度の基礎と原理について学び、今日の地域ケア課題の中における保健と社会福祉の重なりや役割分担について理解を深め、ヘルスケアにおいて、社会福祉の価値、方法・技術とサービス資源を活用した統合的実践ができるような知識、能力を習得すること。

〔到達目標〕

- ①社会保障の基本的な概念と方法が説明できる。
- ②保健・医療・福祉のサービス提供の仕組みが説明できる。
- ③保健・医療・福祉サービスの利用・権利システムが説明できる。
- ④「ケア」の実践場面における保健・福祉の統合的実践の意味について説明ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション／講義
- 第 2 回 現代社会と社会福祉・社会保障 1 成立過程・目的・対象（ニーズ）／講義
- 第 3 回 現代社会と社会福祉・社会保障 2 役割（機能）と方法／講義
- 第 4 回 現代社会と社会福祉・社会保障 3 制度・政策的課題／講義
- 第 5 回 保健・医療・福祉サービスの計画と提供のシステム／講義
- 第 6 回 保健・医療・福祉サービスの費用システム／講義
- 第 7 回 保健・医療・福祉サービスの利用・権利システム／講義
- 第 8 回 保健・医療・福祉をめぐる制度、政策の今日的課題／講義
- 第 9 回 受講生による課題リポート（発表）／プレゼン・ディベート
- 第 10 回 コミュニティ・ヘルスケア政策 1：総論／講義
- 第 11 回 コミュニティ・ヘルスケア政策 2：岩手県旧沢内村の「地域包括医療」／講義
- 第 12 回 コミュニティ・ヘルスケア政策 3：佐久市における農村型地域医療／講義
- 第 13 回 保健・福祉の専門職制度／講義
- 第 14 回 受講生による課題リポート（発表）／プレゼン・ディベート
- 第 15 回 まとめ／講義

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキストは使用しない。講義ごとにレジメを配布する。

参考文献

- ①系統看護学講座『社会保障・社会福祉』医学書院

②看護管理学習テキスト『看護制度・政策論』日本看護協会出版会

〔成績評価の方法・基準〕

2回のレポート・報告（35点×2）

講義・ディベートでの発言（20点）

参加状況（10点）

〔授業時間外学修〕

①受講生は、本講義のテーマに関して、具体的な課題を定め、2回発表・報告を行なう。

②時間外の学習は、受講生の関心にそって、その都度、指示する。

〔オフィスアワー〕

随時、メールで質問等を受ける。

yo sato ● saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

受講生の皆さんの関心に沿って、できるだけ、具体的なテーマ、課題を織り込みながら授業を進めたいと思いますので、講義に関連した、新聞、TV等での報道にできるだけ目を通しておいってください。

ヘルスプロモーション/健康教育 2023年度入学

大学院 > 看護学研究科看護学専攻 > 総合的分野
1 年
2単位 前期
講義

細谷 たき子、小林 恵子、松下 由美子

〔授業の概要〕

ヘルスプロモーション論、地域社会の背景を捉え、健康増進・疫学・疾病予防を促進するための高度な知識・技術を修得する。

〔到達目標〕

- 1.健康教育・ヘルスプロモーション発展の社会的・歴史的背景を理解する
- 2.健康教育・ヘルスプロモーションの理論を理解する。
- 3.理論を応用した健康教育ができる。
- 4.健康教育の評価ができる。
- 5.健康格差とヘルスプロモーションについて理解する。
- 6.地域住民の疾病予防、およびリハビリテーションの理論・実践を理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 健康教育からヘルスプロモーションへ（講義/細谷）（講義/細谷）
1. 健康教育の歴史的・社会的変遷
2. ヘルスプロモーションの歴史的・社会的背景
- 第 2 回 ヘルスプロモーション（講義/細谷）
ヘルスプロモーションと健康日本21
- 第 3 回 健康教育の理論（1）（講義/細谷）
1.健康教育の定義
2.KAPモデル
- 第 4 回 健康教育の理論（2）（講義/細谷）
ヘルスビリーフモデル
- 第 5 回 健康教育の理論（3）（講義/細谷）
トランスセオレティカルモデルと変容ステージ
- 第 6 回 健康教育の理論（4）（講義/細谷）
1.社会認知論
2.自己効力感
3.エンパワメント
- 第 7 回 健康教育の理論（5）（講義/細谷）
ストレスコーピングのトランスアクションモデル
- 第 8 回 健康教育の目的と方法（講義/細谷）
健康教育の目的と方法
- 第 9 回 健康教育の評価（講義/細谷）
1.評価の構造
2.健康教育の評価
- 第 10 回 保健・看護の現場の健康教育（1）（演習/細谷）
現場のニーズアセスメント
健康教育計画

- 第 11 回 保健・看護の現場の健康教育（2）（演習/細谷）
健康教育作成
- 第 12 回 保健・看護の現場の健康教育（3）（演習/細谷）
健康教育発表と評価
- 第 13 回 健康格差とヘルスプロモーション（講義/小林）
健康格差とヘルスプロモーション
- 第 14 回 リハビリテーションの理論と実践（講義/松下）
1.リハビリテーションの理論
2.リハビリテーションの実践例
- 第 15 回 在宅ケアにおける患者・家族教育（講義/藤井）
在宅ケアにおける患者・家族教育

〔テキスト・参考書・参考文献〕

- 1.健康行動と健康教育—理論、研究、実践：Heren Glanz, Barbara K.Rimer, Frances Marcus Lewis編、曾根智史、湯浅資之、渡部基、鳩野洋子訳、医学書院、2006.
- 2.実践ヘルスプロモーションPRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価、Lawrence W.Green, Marshall W.Kreuter著、神馬征峰訳、医学書院2005.
- 3.ヘルスプロモーションの評価—成果につながる5つのステップ、Penelope Hawe, Deirdre Degeling, Jane Hall著、鳩野洋子、曾根智史訳、医学書院、2003.
- 4.健康格差社会—何が健康を蝕むのか：近藤克則、医学書院、2006.

〔成績評価の方法・基準〕

授業参加状況：60%

課題レポート：40%

〔授業時間外学修〕

資料、課題を事前に読み、講義時間の討議に参加できる準備をしてください。プレゼンテーションを課題とします。

〔オフィスアワー〕

授業実施日の昼休み及び放課後

細谷：t-hosoya●saku.ac.jp 小林：k-kobayashi●saku.ac.jp

松下：y-matsushita●saku.ac.jp 藤井：c-fujii●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

- 1.入手困難な文献はコピーを資料として配布します。
- 2.履修者と相談のうえ、授業日時を臨機応変に変更することがあります。

大学院＞看護学研究科看護学専攻＞専門分野
1年
2単位 前期
講義

吉田 文子

〔授業の概要〕

看護教育の現状と課題について理解し、看護職の役割、機能、看護職の能力開発について、教授・考察する。

〔到達目標〕

1. 看護教育学の柱の1つである看護継続教育の意義を述べるができる。
2. 教育と学習の概念を再構築することができる。
3. 学習者（看護職者）への教育的な働きかけを事例的に説明できる。
4. 自己の臨床経験を踏まえて教育的立場からの課題を再考し、プレゼンテーションすることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

1. 本科目ゴールの協働注視、シラバスの概説、受講動機からみた学修課題 講義
看護学の科学としての歩み
2. 看護教育学の意義と実際 講義・討論
(看護継続教育・看護卒後教育・看護基礎教育)
3. 学習と教育パラダイム 講義・討論
「教える」から「学ぶ」への転換
4. 看護実践と教育パラダイム 講義・討論
教育観の再構築
5. 学習のメカニズムとその理論 講義・討論
6. 学習促進のための教育支援① 講義・討論
看護職者等の学習ニード
7. 学習促進のための教育支援② 講義・討論
看護職者等の教育（学習風土の醸成とその評価）
8. 学習促進のための教育支援③ 講義・討論
評価時の留意、評価者バイアス
9. 教育評価論：学習者主体の評価 講義
評価の種類、パフォーマンス評価
- 10・11. リーダーシップとディープアクティブラーニング
演習
12. クリティカルシンキング問題の検討 演習
- 13・14. 各自のテーマに基づいて、看護教育の方向性を考える 演習
15. 看護教育の課題からみたその働きかけ、まとめ 演習

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：指定はありません。授業内で提示します。

参考文献：

Knowles, M. (1998). The Adult Learner: The Definitive Classic in Adult Education and Human Resource Development (Managing Cultural Differences) (5Ed). Butterworth-Heinemann.

米国看護師協会（American nurses association/ANA）[http://](http://www.nursingworld.org)

www.nursingworld.org

国際看護師協会（International Council of Nurses / ICN）

<http://www.icn.ch>

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験（20％）

レポート（20％）

討議への参加度と内容（30％）

プレゼンテーション（30％）

〔授業時間外学修〕

本科目は、2単位30時間であるため自己学修時間は計算上、45時間となります。

- ・テーマ探求に向けた看護実践のまとめ 6時間程度
- ・課題への準備 19時間程度
- ・文献講読とその準備 20時間程度

〔オフィスアワー〕

メールをください。時間を設定してご連絡します。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

本科目を担当する教員は、看護職としての実務経験を持ちます。実践知を活かした授業を行い、学生の皆さんが看護学や高度看護実践について追究しやすいよう配慮しています。

〔その他履修上の留意事項等〕

・ベースとなる進め方としては、各自で教育に関するテーマを臨床現場経験から探求していきます。その過程で「すべきこと、してみたいこと、できること」が見えてくるかと思います。その体験をきっかけにして現場教育のあり方を模索していただけることを願っています。

看護教育学演習 2023年度入学

大学院 > 看護学研究科看護学専攻 > 専門分野
1 年
2単位 後期
演習

吉田 文子

〔授業の概要〕

看護教育学特論の学習を前提に、看護教育関連の研究論文を抄読し、看護教育について総合的に理解を深める。また、今後に向けて、看護教育の方法を実践・展開する知識、能力を強化する。

〔到達目標〕

Course Outcomes:

1. 看護基礎教育からみた看護継続教育の意義を述べることができる。
2. 自己の教育観、学習観を再構成できる。
3. アンドラゴジーによる教育方法の原則について具体例を説明することができる。
4. 学習理論と評価理論の意義について説明できる。
5. 教育プログラムの実施とその評価をすることができる。
6. 看護学教育の今後の課題をディスカッションすることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

1. 本科目のゴールの共有化（シラバスの解説）、評価規準・基準のクラス内確認 講義演習
ティーチングポートフォリオ作成の準備
- 2・3・4. 模擬授業（教育）企画と評価の準備 講義演習
模擬教育の実施に向けて、計画・立案
- 5・6 ポートフォリオの意義と活用 講義演習
7. アンドラゴジー、教育と学習 講義演習
8. 教育方法の原理：学習のメカニズムと方法 講義演習
9. 模擬授業（教育）の実施 講義演習
10. リフレクション（模擬授業） 講義演習
11. キャリアビジョン 講義演習
12. 教育プログラムの参観を通して教育現場の実際を体験し、教育の基本的構成要素について
討議する 講義演習
- 13・14・15. 教育課題についてのプレゼンテーション（文献講読） 講義演習

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：指定なし

参考文献：

- ・ Malcolm Knowles (1998). The Adult Learner: The Definitive Classic in Adult Education and Human Resource Development (Managing Cultural Differences (5Ed). Butterworth-Heinemann.
- ・ 市川伸一 (2011). 学習と教育の心理学 増補版、岩波書店。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート（20％）

授業内討議（10％）

プレゼンテーション（20％）

模擬授業の実施・評価（20％）

ティーチングポートフォリオ（30％）

〔授業時間外学修〕

本科目は、2単位30時間であるため自己学習時間は計算上、45時間となります。

- ・ ティーチング・ポートフォリオ 20時間程度
- ・ 模擬プログラム立案と評価 10時間程度
- ・ 各課題への準備 10時間程度
- ・ 教育課題へのプレゼンテーション 5時間程度

〔オフィスアワー〕

授業後（研究室直接訪問可）

他の日は以下アドレスにメールをください。

fy200●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

本科目を担当する教員は、看護職としての実務経験を持ちます。実践知を活かした授業を行い、学生の皆さんが看護学や高度看護実践について追究しやすいよう配慮しています。

〔その他履修上の留意事項等〕

ティーチングポートフォリオを作成します。その際、レジюме（履歴）などは英語で作成していきます。

国際看護学特論 2023年度入学

大学院 > 看護学研究科看護学専攻 > 専門分野
1 年
2単位 前期
講義

八尋 道子、細谷 たき子、東田 吉子

〔授業の概要〕

1. 科学としての看護、エビデンスに基づく看護とはどのように示されるかを、論文購読を通じて理解する。
2. 国際的視野から看護教育の状況、看護活動、世界の保健状況、医療システムの現状を理解する。医療と経済的課題との関わり、政策的問題など、国情による違いを理解し、問題点を討議する。
3. 国際的な見地から、看護職者の役割、活動状況を理解するとともに、看護人材育成の在り方を考察する。
4. 海外の看護職者の育成状況、活動の場、看護の質と看護職者の能力開発等について、資料を調べ、理解を深める。

〔到達目標〕

1. 異文化理解を深め、国際看護活動のあり方、国際協力のあり方、世界の医療・保健状況等を理解する。
2. 国際保健における人材育成のあり方について、事例を通して理解する。
3. 国際看護活動の論文購読を通じて、国際保健・看護の研究論文の書き方を理解する。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

1 回目：講義（八尋・東田）

オリエンテーション

国際保健・看護の定義、プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション

タイにおける高齢者支援プロジェクトの概要

2～6回目：演習・講義（東田）

開発途上国の健康状況と看護

異文化理解、国際協力1

7～11回目：演習・講義（東田）

異文化理解、国際協力2

12～14回目：講義（細谷）

国際保健・看護に関する文献検討

15回目：講義（東田・細谷）

まとめ

〔テキスト・参考書・参考文献〕

参考文献等適宜紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕

事前の準備・課題、授業参加状況・レポート（70%）

文献購読プレゼンテーション（30%）

〔授業時間外学修〕

国際保健・国際看護に関する文献検討の授業では、課題の文献を提示しますので、課題文献について発表の資料を作成してください。発表資料は和文、英文のどちらを使用してもよいです。英文で発表の際は他の履修生にもわかるように日本語で注釈してください。

〔オフィスアワー〕

授業終了後、もしくはメールで対応する。

八尋 m-yahiro@saku.ac.jp 5号館2階205研究室

細谷 t-hosoya@saku.ac.jp 5号館3階教員室

東田 y-tsukada@saku.ac.jp 1号館1階社会連携・研究支援センター

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

開発途上国において、国際協力、国際看護活動を実践した経験をもつ教員が、その実務経験を活かして授業を展開します。

〔その他履修上の留意事項等〕

海外からの研修生が滞在している期間は、講義のなかで、研修生の国の保健・医療状況を紹介する時間をできるだけ設定するため、講義日程は調整が必要となる場合があります。また、学部生の海外研修に、大学院生も希望があれば参加できます。

国際看護学演習 2023年度入学

大学院 > 看護学研究科看護学専攻 > 専門分野
1 年
2単位 後期
演習

〔授業の概要〕

国際看護学特論の学修を前提に、海外における看護活動の実際、並びに文化の違いによる看護の考え方、看護実践における異文化理解の方法などを、文献、資料を通じて理解し、グローバル化する世界における看護活動の在り方を考える。

〔到達目標〕

1. 海外における看護教育、人材育成のあり方、保健医療システムの理解、その背景を文献、資料をとおして検討し、今後の国際的な看護活動、研究計画作成に向けての力を養う。
2. 文献、資料抄読によって、異文化理解、国際的看護活動の現状を知り、自国との共通点、相違点を理解し、今後の看護実践や研究の実施に当たって、状況に適した柔軟性を養う。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

〔第1回～第7回〕

文献をとおして異文化を理解し、また、看護教育や国際保健・看護に関する国内外文献を検索し、文献、資料を基に各自が自国の看護活動と比較し、考察して、異文化理解をすすめる。

さらに文化と関連づけて、国際協力のあり方、看護活動や看護教育のあり方について学ぶ。

第1回～第3回：鶴岡

第4回・第5回：細谷

第6回・第7回：束田

〔第8回～第15回〕

資料を購読し、ディスカッションによって、国際的視野で看護活動のあり方、その背景を考察し、文化的、宗教的、政治的、経済的、環境的に異なる国における看護活動ができるための課題を明確にする。

第8回～第15回：鶴岡

〔テキスト・参考書・参考文献〕

各授業時に提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

事前の授業準備（20％）

プレゼンテーション（30％）

文献クリティーク（30％）

課題レポート（20％）

〔授業時間外学修〕

研究テーマに関する外国文献および日本の文献を読み、概要について資料を作成し、授業で発表できるように準備する。

〔オフィスアワー〕

授業後もしくはメールで対応する。

鶴岡 s-tsuruoka@saku.ac.jp 5号館3階305

細谷 t-hosoya@saku.ac.jp 5号館3階教員室

束田 y-tsukada@saku.ac.jp 1号館1階社会連携・研究支援センター

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

開発途上国等で国際協力、国際看護活動を実践した経験をもつ教員が、その実務経験を活かして授業を展開します。

〔その他履修上の留意事項等〕

学生の興味ある分野の文献と、教員が提示する国際看護の文献を抄読し、ディスカッションで進める演習とします。英文の文献を読む努力と、海外の研修生と情報交換する努力が求められます。

大学院＞看護学研究科看護学専攻＞専門分野
1年
2単位 前期
講義

齋藤 順子

〔授業の概要〕

保健医療福祉を取り巻く環境と経済を概観し、看護サービスおよび看護管理のあり方を教授する。医療提供体制の創造と変革に影響のある看護組織運営について看護管理過程を学び、看護管理を巡る課題を多角的に検討し、看護管理者としての具体的な取り組みについて探求する。

〔到達目標〕

- 1.保健医療福祉の政策動向を理解し、それらが看護管理に与える影響及び今後の課題について理解できる。
- 2.看護管理に必要な知識体系を諸理論を通して学び、看護管理へ活用できる。
- 3.看護の質を保証するための人材開発と人的資源の活用方法を説明できる。
- 4.医療経済の動向を踏まえ、健全な組織運営に必要な経営的視点について説明できる。
- 5.看護管理者が備えるべき要件、及びスキルについて説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

■第1回目：オリエンテーション、看護管理について

授業内容：

- ・授業の進め方について
- ・マネジメントと看護マネジメント

授業方法：講義

■第2回目：組織管理論-1

授業内容：

- ・組織の成り立ちと構造
- ・組織管理論の変遷
- ・組織運営と看護管理

授業方法：講義と討論

■第3回目：組織管理論-2

授業内容：

- ・組織文化・組織風土
- ・組織の発達と衰退、組織変革

授業方法：講義と討論

■第4回～14回目：学生によるプレゼンテーション

授業内容

*人材管理

- ・専門職としてのキャリア形成、キャリア発達・

キャリア開発

- ・専門職とプロフェッション
- ・専門職の人材育成と活用

- ・看護職の拡充する役割と資格認定制度
- ・リーダーシップの概念と理論、リーダーシップスキル
- ・モチベーションマネジメント

*看護サービスとマネジメント

- ・サービスの基本的特性と3つの構造
- ・医療・看護サービスの質の保証

*医療の中の協働

- ・看護単位と看護提供体制
- ・チーム医療、多職種連携

*業務遂行のマネジメント

- ・病院組織における労務管理
- ・看護業務遂行のための業務管理
- ・看護業務遂行のための物的資源・医薬品管理
- ・タイムマネジメント
- ・ストレスマネジメント

*医療制度と病院経営

- ・医療制度と診療報酬
- ・地域医療連携
- ・地域包括システム

*医療現場の業務上の危険

- ・労働安全衛生法
- ・職業感染、医療機器、医薬品等の危険、

第三者による暴力

*看護職の法的責任、基本的責務

- ・看護職者の問われる法的責任
- ・法と倫理
- ・看護職者の基本的責務
- ・看護管理と倫理

*安全管理

- ・医療安全
- ・医療現場の感染管理
- ・災害対策

*組織論

- ・コンフリクトマネジメント
- ・組織分析と組織改革を検討する

授業方法：学生によるプレゼンテーションと討論

■第15回：まとめ

授業内容：今後の看護管理の課題の検討

授業方法：討論

〔テキスト・参考書・参考文献〕

参考文献：図書館に複数冊を配置しています。

① 看護管理学習テキスト第3版 第1巻～第5巻、別巻 監修：井部俊子、日本看護協会出版会、2022年版

② 小池智子：看護サービス管理 第5版、医学書院、2018

③ Stephen P.Robbins/高木晴夫訳「新版 組織行動のマネジメント 入門から実践へ」ダイヤモンド社、2009

その他：PCAN学生にはテキストは決めません。参考図書は図書館から借りてください。

〔成績評価の方法・基準〕

■プレゼンテーション（30％）

- ・各討論テーマについて準備し、プレゼンをします。良質な資料を検索しましょう。
- ・他者に伝えるスキルを磨きましょう。

■課題レポート（40％）

- ・討論を通してメンバーから学んだことや新しい発見、および振り返り学修を通して知の創造をしましょう。それを毎回レポートにまとめてください。
- ・課題に対する準備や発表に対しては、メールや授業中に直接助言をいたします。

■討議参加状況（30％）

- ・教員やメンバーのプレゼン・討論に積極的に参加し、自らの考えを述べましょう。
- ・毎回のテーマに関する周辺学問の知識を旺盛に自己学修し、発言しましょう。

〔授業時間外学修〕

初回の授業でお知らせしますが、以下のように自己学修が必要となります。

- ・3回目の授業までは教員が講義し、その後討論を行いますので各自で資料や文献を通して考えをまとめてください。
- ・4回目以降の授業は、学生が興味ある看護管理の内容について、学生がプレゼンテーションを行い、その後意見交換を行います。その時に授業内容について、各自で資料や文献を通して考えをまとめて討論の参加して下さい。
- ・プレゼンテーションする学生は、1週間前にプレゼンテーション資料を教員と学生に配布してください。
- ・プレゼンテーションした学生は、討論を通して学び得たことをレポートにまとめて1週間以内に提出してください

〔オフィスアワー〕

授業後もしくはメールで対応する。

齋藤：y-saito@saku.ac.jp 5号館2階202

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

病院での看護管理者として看護管理の経験がある教員が、経験を活かしてマネジメント理論と実践、看護管理に関する課題や知見を講義します。

〔その他履修上の留意事項等〕

修士課程の学修は、看護学をより深く探求し、科学的思考力と研究の手法を習得して看護研究を遂行し、看護能力のさらなる開発を行うことを目的にしています。

看護管理学特論の授業では、まず最善の看護を実践するためのマネジメントのあり方について、組織内から広く政策までを科学的思考力で探求します。看護管理領域専攻の学生は其中で自身の研究テーマを模索し、次の看護管理学演習の授業につなげていきます。PCANの学生は組織変革のために必要なマネジメントのあり方を探求します。看護管理学特論を受講する学生は、職業経験によってレディネスの幅に開きがあると推測します。授業はプレゼンテーションが多くなりますので、進行過程でいつでも相談してください。

教員も必要知識の助言をしていきます。

看護管理学演習 2023年度入学

大学院 > 看護学研究科看護学専攻 > 専門分野
1 年
2単位 後期
演習

齋藤 順子、内山 明子

〔授業の概要〕

看護管理学特論で学修した概念や理論、知識・技術を実践の場で適応し、考察することにより、組織の目標および目的達成への看護管理者の役割を探求し、看護管理のプロセスを踏まえて自己の研究課題を明確にする。

〔到達目標〕

1. 看護サービス管理における諸理論について国内外の文献を収集し、クリティカルに抄読し、発表する。
2. 看護サービス管理における諸理論を踏まえ、質保証のためのマネジメントのあり方を理解する。
3. 文献検討を通して自らの研究課題を明らかにし、研究計画の作成につなげる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

■第1回目：オリエンテーション

授業内容：

- ・授業の進め方について
- ・文献レビュー方法について

授業方法：講義

■第2回目：文献クリティックと看護管理領域における研究の動向

授業内容：

- ・研究論文の構成要素および文献のクリティックについて概説する
- ・最近の看護管理領域における研究の動向を探る

授業方法：講義と演習

■第3回目：研究課題と文献クリティック

授業内容：

- ・自身の臨床における疑問と研究課題について報告する
- ・文献のクリティックを実施し方法を学ぶ

授業方法：講義と演習

■第4回～11回目：看護管理上の視点で、各自の研究課題に即した文献を選び、クリティックを実施する。

内容

- ・看護管理者の役割と機能
- ・看護組織
- ・看護マネジメント
- ・看護における人的資源活用
- ・看護情報管理
- ・看護経営と経済
- ・看護制度と政策

授業方法：演習

■第12回～15回目：文献検討の結果をもとに研究計画書を作成する準備を行う。

授業内容：

- ・研究の意義、目的、リサーチクエスションの記述
- ・研究デザインの検討
- ・研究のキーワードと文献検討の継続
- ・データ収集方法と分析方法
- ・研究における倫理上の問題検討、APRIN受講について
- ・研究計画書に必要とされる要素

授業方法：演習

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：

- ①バーンズ&グローブ, 看護研究入門 原著第7版—評価・統合・エビデンスの生成 単行本（ソフトカバー）- 2015.
- ②山川みやえ・牧本清子, よくわかる看護研究論文のクリティーク, 日本看護協会出版会, 2014.

〔成績評価の方法・基準〕

■プレゼンテーション（30%）

- ・各検索論文についてプレゼンをします。良質な資料を検索しましょう。
- ・他者に伝えるスキルを磨きましょう。

■課題レポート（40%）

- ・討論を通してメンバーから学んだことや新しい発見、および振り返り学修を通して知の創造をしましょう。それを指定用紙にまとめてください。
- ・課題に対する準備や発表に対しては、メールや授業中に直接助言をいたします。

■討議参加状況（30%）

- ・教員やメンバーのプレゼン・討論に積極的に参加し、自らの考えを述べましょう。
- ・毎回のテーマに関する周辺学問の知識を旺盛に自己学修し、発言しましょう。

〔授業時間外学修〕

1. 自らの研究課題に有効となるような文献を丁寧に検索してください。（1～2時間程度の準備）
 2. 検索した文献を熟読し、文献クリティックの基準に沿って熟考してください。（1テーマ/3～4時間の予習）
 3. 毎週授業の2～3日前までに、文献とクリティーク用紙を学生、教員に提出をしてください。
 4. 他学生の提出論文についても、文献クリティックし、意見を述べられるようにしておいてください。（1～2時間）
- 毎回の授業終了ごとに文献を効果的に整理して、研究課題が明らかになるように、まとめをしてください。（1時間）

〔オフィスアワー〕

授業後もしくはメールで対応する。

齋藤：y-saito@saku.ac.jp 5号館2階202

内山：a-uchiyama@saku.ac.jp 5号館2階206

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

修士課程の学修は、看護学をより深く探求し、科学的思考力と研究の手法を習得して看護研究を遂行し、看護能力のさらなる開発を行うことを目的にしています。

看護管理学特論の授業での知識・理論を活かし、積極的に

看護管理学に関する論文を検索しましょう。論文課題は、自らが抱えている研究疑問を中心に展開されるといいでしょう。

授業はプレゼンテーションが多くなりますので、進行過程でいつでも相談してください。教員も必要知識の助言をしていきます

大学院＞看護学研究科看護学専攻＞専門分野
1年
2単位 前期
講義

湯本 敦子

〔授業の概要〕

母性・父性・親性、子ども、家族の健全な育成とケアに活用できる理論を学び、看護実践への活用方法を考察する。さらに、母性看護における倫理や研究の動向について学ぶ。

〔到達目標〕

1. 母性・助産領域の理論、リプロダクティブヘルス・ライツの理念を説明できる。
- 1)基礎理論：ヘルスプロモーション、母親役割、愛着形成、母子相互作用、家族システム、社会認知理論、行動理論 など
- 2)概念：母子保健、リプロダクティブヘルス・ライツ、ウィメンズヘルス、家族関係、生涯発達、セクシュアリティ、ジェンダー など
2. 1の理論や概念を学び、EBNに基づく看護・助産援助の重要性を探究できる。
3. 母性・父性・家族の発達過程について、書籍・文献を通して考察できる。
4. 我が国の母子保健の変遷と歴史を概観し、母子保健の課題と母子・家族に対して看護・助産が果たす役割を考察できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

- 第1-2回 基礎理論と概念1（講義・演習 / 湯本敦子・）
ヘルスプロモーション理論、母親役割、愛着形成、母子相互作用、家族システム理論、社会認知理論、行動理論等
- 第3-4回 基礎理論と概念2（講義・演習 / 湯本敦子・）
母子保健、リプロダクティブヘルス・ライツ、家族関係、生涯発達、セクシュアリティ、ジェンダー等
- 第5回 地域母子保健活動の現状と課題（講義・演習 / 湯本敦子・）
健やか親子21報告書、母性領域における統計資料等の分析
- 第6回 周産期ケアと諸問題（講義・演習 / 湯本敦子・）
助産師外来、院内助産、助産ケアとEBM
- 第7回 社会の変化と出産・産育、妊産婦のQOL（講義 / 湯本敦子・）
- 第8-15回 文献抄読を通し母性・父性・家族の発達について討議、考察、レポートする

〔テキスト・参考書・参考文献〕

特に指定しない。参考文献について授業時に提示する。

〔成績評価の方法・基準〕

- | | |
|------------|-----|
| ・毎回の学習課題 | 40% |
| ・最終レポート | 40% |
| ・プレゼンテーション | 20% |

〔授業時間外学修〕

プレゼンテーション・ディスカッションを中心に進めるので、それぞれの回の内容に関連する課題について事前学習し、プレゼンテーションの準備をする（3時間）

〔オフィスアワー〕

講義の後

あるいは適宜メールで受け付ける 湯本：a-yumoto@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

自己の関心を大切にして、課題解決に向けて積極的に行動をしてください。その結果が、看護研究に発展できるよう意識しながら取り組んでください。

母子看護学特論Ⅱ 2023年度入学

大学院＞看護学研究科看護学専攻＞専門分野
1年
2単位 前期
講義

鈴木 千衣、小林 睦

〔授業の概要〕

小児、家族および小児・家族を取り巻く環境を理解するために、関連する理論を学び、看護実践への活用方法を考察する。さらに、小児保健医療の動向を理解し、今後の小児看護の課題を探索する。

〔到達目標〕

1. 発達理論の歴史を理解し、主な発達理論を理解する。
2. 小児看護に活用できる理論を学修し、看護実践への活用を考察できる。

小児保健医療・看護の動向を理解する。さらに、小児保健医療の中で、子どもや家族がおかれている現状を理解し、今後の課題が考えられる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP1

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション / 発達理論の歴史的概観
本科目の内容と学修方法について理解する。
発達理論が出てきた歴史的状況を把握する。また、発達理論にはどのようなものがあるのか理解する。
- 第2回 発達理論の概観 理論家の背景と理論の概要①（ピアジェ）
発達理論の概観①～④については、小児看護において基本となる主要な理論について理論分析を行う。
- 第3回 発達理論の概観 理論家の背景と理論の概要②（フロイト）
- 第4回 発達理論の概観 理論家の背景と理論の概要③（エリクソン）
- 第5回 発達理論の概観 理論家の背景と理論の概要④
ボウルビィ、マラー等
- 第6回 小児看護とセルフケア理論①
オレムのセルフケア理論を理解し、小児看護への適用を考える。
- 第7回 小児看護とセルフケア理論②
- 第8回 子どもの看護と倫理①
小児医療における倫理問題について概観する。
- 第9回 子どもの看護と倫理②
小児看護の場面で倫理的に問題と感ずる事例を揚げ、それに関する資料をまとめ発表し討議する。
- 第10回 小児看護と研究
小児看護研究の動向と小児看護研究における倫理について考える。
- 第11回 小児保健医療の動向①

小児保健医療における学生が関心のある事象について、文献検索を行い、その動向を調べ発表し、討議する。以下15回まで同様

第12回 小児保健医療の動向②

第13回 小児保健医療の動向③

第14回 小児保健医療の動向④

第15回 小児保健医療の動向⑤

〔テキスト・参考書・参考文献〕

特にありません。

〔成績評価の方法・基準〕

■ レポート（30%） ■ 授業参加状況（70%）

1.各講義におけるプレゼンテーションの内容と討議（授業参加状況）（70%）

主に、毎回の授業のプレゼンテーションと討議の内容で評価します

2.レポート提出(30%)

セルフケア理論を使って、学生が臨床で看護したケースのアセスメントを行いレポートとしてまとめる。

〔授業時間外学修〕

学生のプレゼンテーションを中心に進めていくので、事前の学習は、最低3時間は必要となります。

〔オフィスアワー〕

* 質問は授業後に受け付けます。それ以外はメールでお願いします

c-suzuki●saku.ac.jp 研究室 5号館3階307

m-kobayashi●saku.ac.jp 研究室 5号館2階201

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

本科目は、小児看護を行う上で重要となる理論の知識を学び、具体的にどのように理論を活用していくのかを検討するものである。「母子看護学演習Ⅱ」では、臨床での看護や研究を行う上での技術を学んでいくが、この科目で学んだ知識を生かしながら深めていく。本科目で、小児看護と倫理について検討するが、それにあたって科目「看護倫理」が基本となる。

母子看護学演習Ⅰ 2023年度入学

大学院＞看護学研究科看護学専攻＞専門分野
1年
2単位 後期
演習

湯本 敦子

〔授業の概要〕

母子看護学特論Ⅰの理解を前提として国内外の関連領域にかかわる文献をレビューし、課題に沿って文献購読を行う。さらに、母子看護の実践や研究を実施するうえで、必要なコミュニケーションや観察・面接方法について理解する。

〔到達目標〕

1. 周産期および性と生殖における女性の生涯にかかわる健康をめぐる様々な現象や問題についてその背景や関連要因について分析できる。
2. 上記の諸問題の解決のための看護介入プログラムを試作し新しい看護ケアの構築ができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

第1-4回 文献レビュー 演習

周産期および性と生殖における女性の生涯における健康問題に関する文献のクリティーク（各自の関心に沿った文献を選び、ケア実践の評価の視点からプレゼンテーションする。）

第5-8回 女性の健康問題の実際の把握と分析

さらに研究論文や医療・保健・福祉機関、行政、民間の支援団体等資料なども探索し問題に対する理解を深める。

また、女性が持つ健康問題のアセスメント技術、各種ケアの実践能力、人間関係形成能力、他職種との協働能力を向上させる方策を考える。

第9-12回 問題解決に向けた方策の検討（評価法を含む）

学生個々の関心に基つきテーマを決定し、看護支援について検討する。

第13-14回 看護支援についてプレゼンテーション・討議

第15回 まとめ 母性看護支援の評価と展望

〔テキスト・参考書・参考文献〕

特に指定しない

〔成績評価の方法・基準〕

- ・文献クリティーク 50%
- ・看護支援レポート 50%

〔授業時間外学修〕

・学生のプレゼンテーションを中心に進めていくので、各自のテーマについて文献を検索し資料として作成して授業に出席する必要がある。（3時間）

〔オフィスアワー〕

講義の後

適宜メールで受け付ける メールアドレス湯本：a-yumoto

●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

自己の関心を大切にして、課題解決に向けて積極的に行動をしてください。その結果が、看護研究に発展できるよう意識しながら取り組んでください。

母子看護学演習Ⅱ 2023年度入学

大学院＞看護学研究科看護学専攻＞専門分野
1年
2単位 後期
演習

鈴木 千衣、小林 睦

〔授業の概要〕

小児看護実践と研究の基礎となるデータ収集方法、アセスメント方法、コミュニケーション方法を理解する。さらに、小児看護に関連する研究のクリティックを行いながら、小児看護の現状について深める。

〔到達目標〕

1. 子どもの成長発達評価の方法がわかる。
2. 観察方法を理解し、子どもを観察し、その行動が分析できる。
3. 子どもや親へのインタビュー方法を理解し、実際インタビューを行い、その内容を分析できる。
4. 文献をクリティックしながら読み、小児看護の現状および自分の関心のテーマを深めることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP1

〔授業計画〕

- 第1回 コースオリエンテーション
授業の概要を説明し、学修の進め方についてお話しします。
- 第2回 子どもの成長発達と評価
新生児期から思春期までの子どもの成長発達状況をふりかえり、成長発達評価の方法にはどのようなものがあるのかを整理する。
- 第3回 子どもの観察①：観察方法
研究における観察方法について学修し、その内容と観察法を用いた小児対象の研究文献をもとに小児の観察法について学ぶ。
- 第4回 子どもの行動分析
小児のDVDを視聴し、その行動について分析を行う。
事前にDVDを視聴し、理論等を用いて子どもの行動を分析して授業に臨む。その内容について討議を行う。
- 第5回 子どもの観察②：観察と分析
事前に、子どもの様子を観察し、そのデータを持ち寄る。その観察データをもとに、観察内容、方法の評価を行い、観察方法について具体的に学ぶ。
- 第6回 子どもの観察③：観察と分析
第5回の授業をもとに、再度子どもの様子を観察し、さらにその行動を分析した上で、授業に臨む。その観察、分析をもとに討議を行う。
- 第7回 子どもの会話分析

予め、教員が用意した子どもと大人の会話をもとに、分析を行い授業に臨む。その分析内容をもとに討議を行う。

- 第8回 子どもと親へのインタビュー①：インタビュー方法を学ぶ

研究におけるインタビュー方法の基本を学修した上で、小児や親へのインタビューの方法を整理してくる。さらにインタビューを用いた研究文献をもとに小児や親へのインタビューの方法を検討する。

- 第9回 子どもと親へのインタビュー②：親へのインタビューと分析

事前に親に対する簡単なインタビューを行いデータとしてまとめ、授業に臨む。それを基に親へのインタビュー方法を具体的に学ぶ。

- 第10回 子どもと親へのインタビュー③：子どもへのインタビューと分析

事前に小児に対する簡単なインタビューを行いデータとしてまとめ、授業に臨む。それを基に小児へのインタビュー方法を具体的に学ぶ。

- 第11回 文献クリティック①

①～⑤は、修論のテーマを視野に入れながら、関心のある看護現象についての文献を読み、クリティックを行う。文献の抄読を行いながら、修論のテーマの絞り込みを目指す。

- 第12回 文献クリティック②

- 第13回 文献クリティック③

- 第14回 文献クリティック④

- 第15回 文献クリティック⑤

〔テキスト・参考書・参考文献〕

特に指定しない。図書館内にある書籍等、ご自分が使いやすい書籍で学修してください。ご紹介する用意もあります。

〔成績評価の方法・基準〕

■ レポート（30%） ■ 授業参加状況（70%）

〔授業時間外学修〕

本授業は、学生のプレゼンテーションを中心に進めていく。そのため、その準備はしっかり行ってください。事前に、観察やインタビューの課題がありますので、そのため、学修時間もかなり必要となります。計画的に行ってください。

〔オフィスアワー〕

* 質問は授業後に受け付けます。それ以外はメールでお願いします

c-suzuki@saku.ac.jp 研究室 5号館3階307

m-kobayashi@saku.ac.jp 研究室 5号館2階201

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

本科目は、「母子看護学特論Ⅱ」で学んだ知識を活用しながら行っていくため、「母子看護学特論Ⅱ」を十分に復習して臨む。本科目では、主に、小児を対象とした看護研究方法について学んでいくものであるため、「看護研究方法」が基本となります。また、研究倫理については、「看護倫理」を復習しておいてください。

成人看護学特論 2023年度入学

大学院＞看護学研究科看護学専攻＞専門分野
1年
2単位 前期
講義

水野 照美、武田 貴美子

【授業の概要】

成人看護学領域の研究に影響を与える主な医療政策の動向、及び看護理論、理論における概念構成について講義をする。成人看護学の臨床上の看護ケア、患者の意思決定、患者教育、家族ケアなどに関する研究論文の分析、クリティークをする。

【到達目標】

1. 成人看護にかかわる医療・看護の動向について説明できる
2. 成人看護にかかわる理論や概念について説明できる
3. 研究論文や事例を用いて、理論や概念を看護にどのように活用するか説明できる

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

【授業計画】

- | | |
|--------|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション、成人看護学にかかわる医療・看護の動向
受講学生の関心領域について、研究の動向を確認する |
| 第 2 回 | 理論・概念と成人看護実践への活用1-1 ストレス・コーピング
学問的背景・用語説明・活用についてプレゼンテーション、討議 |
| 第 3 回 | 同 1-2 ストレス・コーピング
論文をクリティークした内容をプレゼンテーション、理論の活用について討議 |
| 第 4 回 | 同 2-1 危機・危機介入
学問的背景・用語説明・活用についてプレゼンテーション、討議 |
| 第 5 回 | 同 2-2 危機・危機介入
論文をクリティークした内容をプレゼンテーション、理論の活用について討議 |
| 第 6 回 | 同 3-1 セルフケア
学問的背景・用語説明・活用についてプレゼンテーション、討議 |
| 第 7 回 | 同 3-2 セルフケア
論文をクリティークした内容をプレゼンテーション、理論の活用について討議 |
| 第 8 回 | 同 4-1 自己効力感
学問的背景・用語説明・活用についてプレゼンテーション、討議 |
| 第 9 回 | 同 4-2 自己効力感
論文をクリティークした内容をプレゼンテーション、理論の活用について討議 |
| 第 10 回 | 同 5-1 エンパワメント
学問的背景・用語説明・活用についてプレゼンテーション、討議 |

- | | |
|--------|--|
| 第 11 回 | 同 5-2 エンパワメント
論文をクリティークした内容をプレゼンテーション、理論の活用について討議 |
| 第 12 回 | 同 6-1 成人教育
学問的背景・用語説明・活用についてプレゼンテーション、討議 |
| 第 13 回 | 同 6-2 成人教育
論文をクリティークした内容をプレゼンテーション、理論の活用について討議 |
| 第 14 回 | 同 7-1 変化ステージモデル
学問的背景・用語説明・活用についてプレゼンテーション、討議 |
| 第 15 回 | 同 7-2 変化ステージモデル
論文をクリティークした内容をプレゼンテーション、理論の活用について討議 |

【テキスト・参考書・参考文献】

参考文献

野川道子（2016）看護実践に活かす中範囲理論 第2版．メヂカルフレンド社
木原雅子ほか訳（2018）健康行動学．メディカル・サイエンス・インターナショナル
アイリーン・モロフ・ラブキン他／黒江ゆり子監訳(2007)クロニックイルネス 人と病いの新たなかかわり．医学書院．
アーサー・クラインマン／江口重幸他訳(2009)病いの語り 慢性の病いをめぐる臨床人類学．誠信書房．

この他、各授業の指定文献および論文は、オリエンテーションの際に紹介する。

【成績評価の方法・基準】

レポート60%、（含：事前学習を踏まえた配布資料、発表後の学びのレポート）

授業参加状況（含：プレゼンテーション、討議）40%
プレゼンテーションへのフィードバックは、授業時間内のディスカッションを通して行います。

【授業時間外学修】

- ・各回の参考文献等を用いて予習をする
- ・プレゼンテーション担当の回：授業前は、課題に関する事前学修をして、その内容をプレゼンテーション資料として作成する。授業後は、質疑応答を経た発表後の学びのレポートを、2週間以内に提出する
- ・プレゼンテーション担当ではない回：討議に参加できるように予習する。

【オフィスアワー】

講義の後、教室で／下記メールでご連絡ください

水野：t-mizuno@saku.ac.jp

武田：k-takeda@saku.ac.jp

●を@に差し替えてください

【実務経験のある教員等による授業科目】

【その他履修上の留意事項等】

- ・成人看護学の範囲は広く、様々な場で活用可能な内容です。受講をご検討ください。
- ・学生のプレゼンテーションを中心に進めるので、十分に準備をして授業に臨んでください。
- ・成人看護学を専攻希望の学生は、この科目の単位取得後

に、「成人看護学演習（後期科目）」を受講することになります。

成人看護学演習 2023年度入学

大学院 > 看護学研究科看護学専攻 > 専門分野
1 年
2単位 後期
演習

水野 照美、武田 貴美子

〔授業の概要〕

英文または和文の看護論文の読解、クリティークをする。論文は、主な看護雑誌より選び、国際的な看護研究を学習し、新しい成人看護ケアの動向を理解するとともに、これまでの体験や研究課題と結び付けながら深める。

〔到達目標〕

1. 成人看護領域における研究論文のクリティークができる
2. 成人看護領域における質的研究・量的研究における研究方法の例を説明できる
3. 臨床における疑問から研究課題を明確にするまでに必要な手続きがわかる
4. 自身の研究課題について説明し、記述できる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

1. オリエンテーション、研究論文の構成要素、臨床における疑問と研究課題

看護研究法で作成した研究計画書を持参して、自身の臨床における疑問と研究課題について報告する。

これを基に今後の学修の進め方を打ち合わせる。

- 2-3. 関心領域における研究の動向

関心領域に関する論述とキーワードをもとに、気になる研究論文を抽出

- 4-7. 研究論文のクリティーク

論文の構成、研究方法とは

- 8-11. 研究論文のクリティーク

論文の焦点と自らの研究課題のつながりとは

- 11-15. 研究論文のクリティーク

研究課題の明確化にかかわる論文とは

〔テキスト・参考書・参考文献〕

参考文献

バーンズ&グローブ．黒田裕子・中木高夫・逸見功監訳（2015）：看護研究入門 原著第7版，エルゼビア・ジャパン．
Holloway I., Wheeler S. 野口美和子監訳（2006）：ナースのための質的研究入門第2版，医学書院．

萱間真美（2013）：質的研究のピットフォール，医学書院．

Sandelowski M. 谷津裕子・江藤裕之訳（2013）：質的研究をめぐる10のキークエスション，医学書院．

牧本清子・山川みやえ編著（2020）：よくわかる看護研究論文のクリティーク，日本看護協会出版会．

〔成績評価の方法・基準〕

目標の達成度 60%

プレゼンテーションの質 20%

ディスカッションへの参加度 20%

プレゼンテーションへのフィードバックは、授業時間内のディスカッションを通して行います。

〔授業時間外学修〕

各授業の課題に取り組みプレゼンテーションの準備をする（各4時間）

〔オフィスアワー〕

講義の後／下記メールアドレスにご連絡ください。

水野：t-mizuno@saku.ac.jp

武田：k-takeda@saku.ac.jp

●を@に差し替えてください。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

・学生のプレゼンテーションを中心に進めるので、十分に準備をして授業に臨んでください。

・この科目を通して、修士論文における研究計画書作成の土台を固めましょう。

大学院＞看護学研究科看護学専攻＞専門分野
1年
2単位 前期
講義

荒井 春生、坂江 千寿子

〔授業の概要〕

精神保健看護と関連の深い基礎理論を、研究および実践への適用の観点から概観する。さらに精神保健看護の研究方法について文献を読み、討議し、考察して、現代社会及び地域の精神保健看護の課題について考察する。

〔到達目標〕

1. 精神看護の基盤となる対象理解に関する諸理論、特に Patricia Benner の看護理論に基づく看護師の実践と行動の関連性を探求できる。
2. 対人関係理論、セルフケアモデル、グリーフケア理論を活用して対象を多面的、分析的、包括的に理解する視点を養う。
3. 歴史的背景を踏まえて日本の精神医療で問題とされている課題を考えることができる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 1

〔授業計画〕

回 授業概要 形態 担当者

1 ガイダンス

心の健康と現代の精神健康問題について文献を用いて探求する 講義 荒井

2-4 精神看護の概念やキーワードを含む論文のクリティーク（プレゼンテーション）

講義・演習 荒井

5-6 対象理解 精神力動論、防衛機制を基に、自我状態をアセスメントする

講義・演習 荒井

7-9 対象理解 代表的なアセスメントツールと治療

講義・演習 坂江

10 看護理論 グリーフケアの歴史と災害との関連

グリーフケア理論の概要・歴史・災害との関連 講義・演習 荒井

11 精神医学及び精神看護学から考える「生」と「死」対人関係理論

講義・演習 荒井

12 精神医療及び看護の歴史を踏まえた看護実践の分析

13-14 精神医療及び看護の歴史を踏まえた看護実践の分析

1) 事例の分析 演習 荒井

2) プレゼンテーション 演習 荒井

15 看護課題の抽出

1) まとめ 講義 演習 荒井

2) レポート 演習 荒井

井

〔テキスト・参考書・参考文献〕

各種図書を随時紹介します。各講義で必要な資料を配布します。

〔成績評価の方法・基準〕

レポート（70％）

授業参加状況（15％）

プレゼンテーション（15％）

〔授業時間外学修〕

精神看護学の基盤となる対象理解を深めるために、毎回の講義で意見交換をしたいと思います。各課題について事前学習をしてください。プレゼンテーションのフィードバックは、授業時間内のディスカッションを通して行います。

〔オフィスアワー〕

1. 質問や意見などは授業前後に対応しますので遠慮なく言ってください。

2. 在室時はできる限り対応します。

3. 不在時はメールでご連絡をお願いします。 ●

saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

大学院＞看護学研究科看護学専攻＞専門分野
1年
2単位 前期
講義

堀内 心き、諏訪 達彦

〔授業の概要〕

地域で健康に暮らす高齢者、老化現象や高齢者特有の疾患により、生活障害を持って過ごす地域在住高齢者、あるいは病院や施設でケアを必要としている高齢者、やがて終末期を迎える高齢者に対して、連続した視点でとらえ、障害の原因を探る。そして、高齢者ケアについて学修を深める。

〔到達目標〕

1. 高齢者の生活機能評価について、ツールの種類と活用について説明できる。
2. 老年症候群及びそれらの症状について、最近の研究報告を通して高齢者ケアの課題を説明できる。
3. 高齢者ケアに関連する倫理的課題について説明できる。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス 高齢者の理解
「老い」とはなにか、老年学的な視点から考える。
また高齢者の特徴、高齢者にとっての健康とは何か考える。
- 第 2 回 老年看護学の歩みと未来
高齢者を取り巻く社会情勢の変化、高齢者へのケア・老年看護学の歩みと展望について学ぶ。
- 第 3 回 高齢者の看護に用いられる主な理論
老年期をよりよく生きるために活用できる諸理論を学び、新たな高齢者観を獲得する。
- 第 4 回 高齢者の保健医療福祉にかかわる政策
人口の高齢化の進展と社会保障費の増大、高齢者個人の保健医療福祉に関わる法律、政策、制度について学ぶ。
- 第 5 回 老年症候群とその看護①
加齢に伴う心身機能の低下を起因とする病態とその看護について学ぶ。
- 第 6 回 老年症候群とその看護②
- 第 7 回 老年症候群とその看護③
- 第 8 回 老年症候群とその看護④
- 第 9 回 認知症の理解とその看護①
認知症の病態とケアの方法について学び、認知症を合併する高齢者の看護について考える。また認知症高齢者とその家族を地域で支えるシステムを学ぶ。
- 第 10 回 認知症の理解とその看護②
- 第 11 回 認知症の理解とその看護③
- 第 12 回 高齢者を総合的に理解するためのアセスメントツール

高齢者の総合的機能評価(CGA)など高齢者の身体心理社会的な理解、また人生や暮らしぶりを把握する方法を学ぶ。

第 13 回 高齢者の健康増進

第 14 回 人生の最終段階にある高齢者の看護
高齢者が最期の日々をその人らしく生きるための看護について考える。

第 15 回 高齢者をとりまく社会的なトピックス
高齢者に関わるトピックスを取り上げ考える。

〔テキスト・参考書・参考文献〕

参考図書

- ・日本老年医学会編(2019). 改訂版 健康長寿診療ハンドブック. 第2版. メジカルビュー社
- ・日本老年医学会(2015). 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015. メディカルビュー社
- ・上田剛士(2014). 高齢者診療で身体診察を強力な武器にするためのエビデンス. シーニュ
- ・東京大学高齢社会総合研究機構(2017). 東大がつくった高齢社会の教科書. 東京大学出版会

〔成績評価の方法・基準〕

- ・課題・プレゼンテーション（50%）
- ・授業参加状況・ディスカッション（50%）

〔授業時間外学修〕

- ・各課題について事前学習し、資料を作成してください。
- ・プレゼンテーションはそのトピックスに関する①解説②疫学的情報 ③関連する論文などを含めて45～60分程度とする。参考図書や関連学会誌の論文などを適宜活用してください。

〔オフィスアワー〕

メールでご確認ください。f-horiuchi@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・プレゼンテーションへのフィードバックは、授業時間内のディスカッションを通して行います。

大学院＞看護学研究科看護学専攻＞専門分野
1年
2単位 後期
演習

荒井 春生、坂江 千寿子、柿澤 美奈子

〔授業の概要〕

精神保健看護への問題意識を基盤に自己の研究課題の明確化を図る。そして、明確になった自己の研究課題に基づき研究計画書を作成する。各講義の後、関連する文献を紹介しクリティークを行う。研究課題の先行論文をはじめ研究方法の基礎を学び、問題意識を明確にして具体的な研究計画書を作るプロセスを学ぶ。

〔到達目標〕

1. 看護研究の意義をふまえ、看護を研究する上での特殊性・倫理性を理解できる。
2. 系統的に文献をクリティークするための方法を学び、関連領域の文献を検索しプレゼンテーションができる。
3. 看護研究する上での特殊性・倫理性について理解し、自己の研究テーマの決定を行う。
4. 看護研究の意義・プロセスについて理解し、研究の一連の過程から、研究活動が続けていくための科学的思考と態度を養う。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP1

〔授業計画〕

1 精神看護領域における基礎的な論文および最新の論文を検索する。演習 坂江・柿澤

3-9 論文を選択し、量的研究、質的研究をクリティークする。

- ・文献サマリーの作成
- ・文献レビューと文献クリティーク
- ・クリティークの視点の理解

10-12 論文で使われている概念、アセスメントツールなど、日ごろの看護で活用する

事例報告など

13 文献検討の結果を基に、研究テーマを絞り込む。

14 リサーチクエスションの記述

15 研究計画書に必要とされる構成要素

- ・研究のキーワードの決定と文献検討の継続
- ・データ収集方法と分析方法の記述
- ・研究における倫理上の問題の検討

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：D.F.Polit他，近藤潤子監訳，看護研究 原理と方法 第2版，医学書院またはN.Burns他，黒田裕子他監訳，看護研究入門－実践・評価・活用－，エルゼビアジャパン
参考文献：各講義に必要な図書・資料を配布、視聴覚資料を提示する

〔成績評価の方法・基準〕

課題レポート（50％）

授業参加状況（30％）

プレゼンテーション（20％）

〔授業時間外学修〕

精神看護に関する研究論文を基に、日ごろの看護を考えるプロセスを通して、自分の研究につなげましょう。自己学習の質と量が重要な鍵になります。

クリティークの経験を重ねて、研究論文とは何かを理解していきます。最初に検索して読んだ論文については、10回までに文献検索結果をマトリックス方式でまとめて提出となります。

15回の授業日までに、APRINを受講できるように並行して進めます。

〔オフィスアワー〕

メールでいつでも質問を受け付けます。chi-sakae@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

日々の看護を振り返り、関連するテーマの先行研究論文に触れて、自分の関心を深めておいてください。

クリティークしてみたいと考えるテーマの英語論文を1編用意して持参してください

精神・老年看護学演習Ⅱ 2023年度入学

大学院＞看護学研究科看護学専攻＞専門分野
1年
2単位 後期
演習

堀内 心き、諏訪 達彦

〔授業の概要〕

高齢者がいきいきと暮らしている個人・集団を対象に、実状、根拠、施策について学修する。また、国内外の文献を講読し、クリティークし、研究方法、分析法、論文のまとめ方を修得するとともに研究課題を明確にする。とくに、ケアの方法について、科学的根拠をもって評価できるよう、これまでの体験を深めながら学修する。

〔到達目標〕

1. 老年看護領域における研究論文のクリティークができる
2. 老年看護領域における質的・量的研究方法、現在の研究状況を説明できる
3. 高齢者ケアの疑問から研究課題を明確にし、必要な研究方法、研究計画を明確にできる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
研究論文の構成要素、文献のクリティークについて概説する
- 第 2 回 老年看護領域における質的研究・量的研究の動向 1
- 第 3 回 老年看護領域における質的研究・量的研究の動向 2
- 第 4 回 老年看護領域における質的研究・量的研究の動向 3
- 第 5 回 老年看護領域における質的研究・量的研究の動向 4
- 第 6 回 老年看護領域における研究論文の読解1
研究動向を探る①
- 第 7 回 老年看護領域における研究論文の読解1
研究動向を探る②
- 第 8 回 老年看護領域における研究論文の読解2
研究課題とその研究方法についてクリティークする①
- 第 9 回 老年看護領域における研究論文の読解2
研究課題とその研究方法についてクリティークする②
- 第 10 回 老年看護領域における研究論文の読解3
自己の研究課題を明確にし、その研究方法を探る①
- 第 11 回 老年看護領域における研究論文の読解3
自己の研究課題を明確にし、その研究方法を探る②
- 第 12 回 老年看護領域における研究論文の読解3
自己の研究課題を明確にし、その研究方法を探る③

- 第 13 回 老年看護領域における研究論文の読解4
研究課題から、研究計画の作成につなげる①
- 第 14 回 老年看護領域における研究論文の読解4
研究課題から、研究計画の作成につなげる②
- 第 15 回 老年看護領域における研究論文の読解4
研究課題から、研究計画の作成につなげる③

〔テキスト・参考書・参考文献〕

各自の課題に沿った文献及びそれに関連して提示する文献

〔成績評価の方法・基準〕

レポート（40％）

授業参加状況（60％）

〔授業時間外学修〕

自らの研究課題に沿って有用な論文を検索し、各回の内容について文献検索、文献購読し、資料を作成する。（3時間/週）

〔オフィスアワー〕

メールでご確認ください。f-horiuchi@saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・「精神・老年看護学特論Ⅱ」を受講した、老年看護学領域を専攻する学生のみが受講できます。
- ・プレゼンテーションへのフィードバックは、授業時間内のディスカッションを通して行います。

大学院＞看護学研究科看護学専攻＞専門分野
1年
2単位 前期
講義

小林 恵子、朴 相俊、細谷 たき子

【授業の概要】

地域看護の概念・理論および地域診断から施策化について探求するとともに、ケアシステムの形成および政策形成プロセスと社会資源の開発に関する講義、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。地域をフィールドに地域住民や関係者と共に取り組む具体的な実践事例を用い、より質の高い実践活動に向けた地域看護技術の開発方法を探求する。

【到達目標】

1. 地域看護の概念・理論について説明できる。
2. 地域診断から施策化のプロセスについて探求し、説明できる。
3. 地域をフィールドに地域住民や関係者と協働で取り組む研究、実践について考察できる。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

【授業計画】

- 第 1 回 科目ガイダンス、ヘルスケアの課題と変遷：小林（恵）
・到達目標、授業概要、授業構成、授業スケジュール
・ヘルスケアの課題と変遷
・プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション
・ソーシャルキャピタル
- 第 2 回 コミュニティ・アセスメントの理論と実際 講義・演習：小林（恵）
・コミュニティ・アズ・パートナーモデル
・エスノグラフィー
・プリシード・プロシードモデル
・個人・グループ・コミュニティのエンパワメント
- 第 3 回 保健事業（プログラム）評価の理論と方法1 講義：朴
- 第 4 回 保健事業（プログラム）評価の理論と方法2 講義・演習：朴
- 第 5 回 コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ1：小林（恵）
・CBPR（地域参加型研究）とは
・CBPRの実践例の紹介
- 第 6 回 コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ2：小林（恵）
CBPRのパートナーシップ
- 第 7 回 コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ3：小林（恵）

- ・CBPR研究の動向と課題
- 第 8 回 コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ4：小林（恵）
・CBPRの実践：事例、研究論文（活動報告、研究報告）クリティーク①
- 第 9 回 コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ5：小林（恵）
・CBPRの実践：事例、研究論文（活動報告、研究報告）クリティーク②
- 第 10 回 コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ6：小林（恵）
・CBPRの実践：事例、研究論文（活動報告、研究報告）クリティーク③
- 第 11 回 コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ7：小林（恵）
・CBPRの実践：私が考えるCBPRの企画書（評価方法を含める）①
- 第 12 回 コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ8：小林（恵）
・CBPRの実践：私が考えるCBPRの企画書（評価方法を含める）②
- 第 13 回 コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ9：小林（恵）
・CBPRの実践：私が考えるCBPRの企画書（評価方法を含める）③
- 第 14 回 コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ10：小林（恵）
CBPRからの学び（発表）
- 第 15 回 まとめ、学びの確認：小林（恵）
授業から学んだ内容について発表、質疑、ディスカッション、まとめ

【テキスト・参考書・参考文献】

【使用テキスト】

地域保健活動に活かすCBPR コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ：CBPR研究会 医歯薬出版 2010
【参考書】

1. Methods for Community-Based Participatory Research for Health, Barbara A. Israel, et al, (Editor), Jossey-Bass, 2012.
2. 健康行動と健康教育；理論、研究、実践：Karen Glsnz, Babara K. Rimer, Frances Marcus Lewis 編、曾根智史、湯浅資之、渡部基、鳩野洋子訳、医学書院、2006.
3. ヘルスプロモーションの評価：Penelope Hawe, Dierdre Degling, Jane Hall, 鳩野洋子、曾根智史訳、医学書院、2003.
4. コミュニティ アズ パートナー、地域看護学の理論と実際：Elizabeth T. Anderson, Judith McFarlane (ed.) 金川克子、早川和生監訳、医学書院、2002.
5. プログラム評価の理論と方法：PETER H. ROSSI, MARK W. LIPSEY, HOWARD E. FREEMAN, 大島巖他監訳、日本評論社、2005.
6. プログラム評価—対人・コミュニティ援助の質を高めるために：安田節之、新曜社、2011.
7. 参加型評価 改善と変革のための評価の実践、源由理子編著、晃洋書房、2016.

〔成績評価の方法・基準〕

プレゼン資料・内容（40％）、討議参加状況（20％）、最終レポート（40％）

〔授業時間外学修〕

- ・授業の準備として、指定したテキストや文献を読み、概要をまとめ考察を加え、授業でプレゼンことを求める。
- ・文献検討においては、取り組む研究テーマに関連のある内容の文献を検索し、準備することを勧める。

〔オフィスアワー〕

原則として講義終了後

小林（恵）：k-kobayashi●saku.ac.jp

朴　　：s-park●saku.ac.jp

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

行政保健師として公衆衛生看護の実務経験が豊富な教員が担当します。

〔その他履修上の留意事項等〕

- ・講義と学生による課題のプレゼンテーションを踏まえ、討議形式で履修内容を深めます。
- ・図書館の医中誌等の文献検索ができるように入学期初から方法を習得しておいてください。

地域・在宅看護学特論Ⅱ 2023年度入学

大学院＞看護学研究科看護学専攻＞専門分野
1年
2単位 前期
講義

大淵 律子、中川 泉

【授業の概要】

在宅療養者とその家族等在宅ケアニーズを有する人々の健康状態の改善と日常生活自立への支援、QOLの維持・向上を目指す地域・在宅看護学の役割と現状での課題を探索するとともに、ニーズに合わせた在宅ケアシステムの構築方法並びに質の高い看護介入の方法の開発について教授する。今後更なる課題となる認知症の地域包括ケア、在宅における終末期ケアの質向上への方策について現状を踏まえて探索する。

【到達目標】

1. 在宅療養者及び家族等における在宅ケアニーズのアセスメント、ケアマネジメント、環境調整、在宅看護技術に関する研究の動向と課題について説明できる。
2. 地域における在宅看護の役割と方法、課題について説明できる。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

【授業計画】

- 第1回 科目ガイダンス、社会の変化と地域包括ケアシステム（大淵）
- 第2回 在宅ケアニーズのアセスメント（大淵）
- 第3回 在宅ケアにおけるケアマネジメント（大淵）
- 第4回 退院支援のプロセスとシステム構築（大淵）
- 第5回 退院支援のプロセスとシステム構築（大淵）
- 第6回 退院支援のシステム構築と看護職の役割（大淵）
- 第7回 在宅看護における家族のアセスメント①（中川）
- 第8回 在宅看護における家族のアセスメント②（中川）
- 第9回 在宅看護における家族への介入①（中川）
- 第10回 在宅看護における家族への介入②（中川）
- 第11回 在宅看護に関する文献検討①（中川）
- 第12回 在宅看護に関する文献検討②（中川）
- 第13回 在宅看護に関する文献検討③（中川）
- 第14回 在宅看護に関する文献検討④（中川）
- 第15回 在宅看護における課題（大淵）

【テキスト・参考書・参考文献】

- ・障害者福祉研究会編（2003）. ICF国際生活機能分類，中央法規.
- ・島内節（2018）. 現場で使える在宅ケアのアウトカム評価，ミネルヴァ書房.
- ・May S, Hanson H, Boyd T.S (2001). 家族看護学 理論・実践・研究，医学書院.
- 他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法・基準】

- 事前の授業準備（30%）
プレゼンテーション（20%）

授業内討議（20%）

課題レポート（30%）

【授業時間外学修】

- ・各課題の文献を熟読し、概要について資料を作成し、プレゼンテーションの準備をする。
- ・適切な文献をデータベースで検索し、授業に持参する。

【オフィスアワー】

r-obuchi@saku.ac.jp 1号館1階

社会連携研究支援センター●u.ac.jp

【実務経験のある教員等による授業科目】

【その他履修上の留意事項等】

講義、学生との討議を中心に授業を進めるため、十分に準備して授業に臨むこと。積極的な発言を求めます。